随見隨筆

四

南國聞見録
三音考
清俗紀聞
養草
唐土名勝圖会

イ 5
448
4

帝國圖書館藏
請佛經閱覽
唐土名勝圖會
抄錄
昭和十年
秋
帝國圖書館藏
448
4

南園詩見錄

清俗紀聞

唐土名勝圖會

抄錄

三音考

養草

○淋疾三方　本草天仁

藁根大　大麥大　金銀花中　海蛤卵中　甘草小　蒼朮五両

右水煎或散白湯三ノ送下此方大抵中毒大江橋南橋詰住居尾

張屋孫世家伝也

○四子の湯　新出くすり方

くすり方　折こみくすり　おもわ　右薬見氏法

○

遠州千里似浦庄適説霸陵上一亭茅茨の庵

法性寺入門中書之為懶懶水切竹下紫苔

常備琴南海美酒和の書人生益無益酒酔

○唇乾裂時ニ口眼喎斜者　真武湯加竹葉　杉葉　土茯苓

○靚粧　謂粉白黛黑

○犯時微若秋毫成病重如山嶽

○旧官百工之喪職秩者

○桃核神効　桃中半　仙中半　竹中半　茅中半　砂中半　延中半　芎中半　呉小　茴小　密小

嗚小　甘小　善小　古十三果

○定散即方便

○一歩　上小五両七両中小一両下小三分也　尾百枚　上小百匹中小十疋

下小南一一歩三尾　六十三四枚イルモノ　大工善造云

○リメル　スニタ　キニ　ピキノラベ　ツメヤワセ　就方ガリ

○戊寅元旦　登楼　此詩不知何人之作一或有書之事而字之来自及後世疑是南先生之作乎

春看春色満庭柯

聖藤蘿瑞雲初浮新月

春付嘗玉何

蓋宗宝記旧山河千竹万花之芳枝井

嘗家年生。硯雅敏之教子之勤学慶

人見之学者之人之こころのつもる双のちりもたまり　仁安

一塵研時花枝風番ゝ吹る接清和家人医伴頓

蓋宗宝記　名年

書時

禁忌七十四条

関羽印

○貴賤　忽諸　世ゝ人ゝ

○腎風　掃口　爪甲黒者死

○人間ハイツルイキハイルヲ二タヌナライナリ

十悪五逆五障三従

法華経ハ人ノ法コトバニイワク浄土ヲカウ行人ハ病患ヲエテヒト

ニコレヨノタノシムト

[illegible]ものゝときこゆるものの所なるべし南無阿弥陀仏とたのゝ[illegible]

抑當國摂州東成郡生玉ノ庄内大坂ト云処ハ

生ハシメヨリシテサタニシル定業ナリ

阿弥陀仏来ノオホセラレケルハ末代ノ凡夫罪業ノ我等クラシモノッ

ミノホトフカノ尾ワレヲ一心ニタノミシ衆生ヲバカナラズスクフベシ上

人ノ法義ヲシルトイフトモ後世ヲシラザル人ヲ愚者トスタトヒ一文

不知ノ尾入道ナリトイフ尾後世ヲシルヲ智者トストイフ

[illegible]定尾不退

五室　一宿善　二善知識　三光明　四信心　五名聞

人間ノ不定ノサカイナリ極楽ハ常住ノ国ナリ

シオモンミシハ人間ハタヽ電光朝露ノ命ノタノミシミ

ヤシレタトヒ一タ榮華栄耀ニフケリテオモフサマノコトナリトイフトモ

シハタヽ五十年乃至百年ノホカノモシラヌ、イツモ無常ノ風来

ラサツイナバイカナル病苦ニアイテカムナシクナリナンヤ一コトニ死セントキハ

カヲテタノミシキツル妻子モ財宝モワガ身ニハ一ツモアヒソフコトアルベカ

ラスサハ死出ノ山路ノスエ三途ノ大河ヲバタヽヒトリコソユキナンスレコレ

ヲリテタヽカリフナカフ（キハ後世ノ事ナリ信

心決定シテ二イル（キハ安養ノ浄土ナリトヲモフベキナリ

[illegible]骨愛人間ノ浮生ナル相ヲツラク観ズルニオヨソ分ナキモノナリ世

ノ始中終ニホロシノコトノナル一期ナリサハイヒタ百歳ノ人身ヲウケ

タリト云ヘトモキカス一生スキヤスシイヒシカタレカ百年ノ形躰ヲ

タモツ（キヤ我ヤサキ人ヤサキケウトモシラスヤシシサキダ

ツ人ハモトノシレツノスエノ露ヨリモシケレトイエリサハ朝ニハ紅顔

アリテタヽニハ白骨トナル身ナリスミニ無常ノ風来リヌレバズナワチ

フタツノ一チコタチ二チニトチヒトツノイキナカノタエヌレハ紅顔ナリシ

変ヒテ桃李ノヨソホヒシウシナヒヌル時ハ六親眷属アツマリテナケキカナシミヲ更ニソノ甲斐アル（カラスサテシモアル）（キ事ナラネバトテ野外ニヨリテ夜半ノ烟トナシハテヌレバタヽ白骨ノミゾノコレリアルヒト云モ中ノクラカナリサレバ人間ノハカナキハ老少不定ノサカヒナレハタレ人カヤリ後生ノ天事ヲ心ニカケテ阿弥陀佛ヲフカクタノミニイヒテ人ヲ化佛ニ成ス（キモノナリ）アナカシコ〳〵

秋玉山

（一一ノ集ニ此詩ナシト崇光生之）

○題

観音宵秘戯図引為本下侯

絵房両株合昏花花氣夜透碧窗紗些少何人芳興発
鬢眉宛轉嬌態加蘭燈影暗巧引人無端相擁委錦
衾一緩一急勾双手一低一昂春汗漬膚芙蓉
露紅潮上臉桃李春卵有毛角有肉此物由来掇皮真（サツ）（ケガノヽ）（紫生生三度バヤリ三ノ）
忽就勝地玉芝肥漸入崖境（ヒヒ）（ヒヒ）褪羅衣火斉欲吐宝縫綻（ホツレ）（ホツレ）
私處墳起芳草微檀（白ノセ）舌徐〻送又回絲（ホツ）唇密〻粘不開

燕泥喃〻多私語鶯刀軽〻剖蚌胎赤水探玉玉出没丹
鼎淬指指去来温柔之郷吾将老玄北之門春登壹壹春
心猛蕩不自禁金蓮桃起鴛鴦衾一戦機虎撼腹吟
戦四戦多秘戯鳥伸熊経学五禽鶴俯啄乎尾益
忘鹿将死兮不擇音戦疲膚立全無力霊龜戈尾泥
深君不見此時海棠睡初熟夢裡猶道盟可期双
鬢穢藉乱不斂珊瑚枕邊有遺簪

○此聖像賛在横須賀宮府加藤氏津田氏写之予又借而
亨以写矣

一以貫之金聲玉振是謂大成賢於堯舜教在六経
異説群聖生民以来未有其盛

吾明胡纘宗賛

享保十一丙子夏日　長渕藁沐題

（伊井紫山天三藁ナル〈し）

○ 和歌

○ 海人の子を [illegible] 面白き事 [illegible] 海の [illegible]

[illegible] 海の [illegible]

[illegible] 田の [illegible]

[illegible] 植温有主簿善別酒好者為
青州從事惡者為平原督郵
注 從事謂到脚下督郵言在高上注也
天保五年年十月七日
抄之

[illegible] 海くちりぬる [illegible] 墨の跡

[illegible] 植三下 惟国

[illegible] 植三下 [illegible] 五

海晴のうらの [illegible] 花契遐年

[illegible] 海花

[illegible] 海 [illegible]

○ 桜 [illegible] 桜 [illegible] 桜 [illegible]

[illegible] 桜 [illegible]

[illegible] 桜 [illegible]

[illegible] 桜 [illegible]

○熱海　和漢要領

○海岸より東北に見る一面高き者よりけりと海井之生い百そで
不定之海干時之一面よりより海ほとりの隠れ海の隠れ
へりるとて見の海の思ちどもしも宜しよりを性なる氣 津田氏云
氏云河の美恵をエトテ美たんと藍田の賀郵 伝ひまい肩縣より
恵之 洗ひ伝ひまと 隅縣より 宿れと云テアルトイ 一り

百敷

八百之と紀ひるとと

ひくくと海くちりめくるとの美の錦たへなる 莫 実の庭
恵侍恵 桂三郎 性西

まりと玉と移ると方ひく叫の美紀山のそとよ元くりそ
高海花 穂高 蓮浜 五丈

伊豫のうら美のまりの底より叫てくる 蓮も見ちよ 山ひきまりの 恵

花契遥年

名も高き山はくと名高きよりとこそ
世にそ中むと年しちりまと八重代も叫ひと名高きの高きさくら
高海花

○海ひくちりまと海ひくちりまとの海ひくちりまと世の海
○桂 碧 碧 碧

実方注云のごとく（きくこと）は むかしよりそなはる人の相
[illegible]
○[illegible]氏 稲の首と稲の書るとを [illegible]
○伊勢物語に平家の下[illegible]
伊せもしらぬ[illegible]
○米を播島より[illegible]
[illegible] 大人云
○結松の[illegible]
[illegible] 本[illegible]云
○ヒヒ[illegible]上[illegible]物小[illegible]ノ病ニヨレトノ義[illegible]ニテトシルヘシ
○ 水[illegible]目[illegible]
[illegible]

世の中の[illegible]人も[illegible]
[illegible]
○江戸[illegible]人を[illegible]
[illegible]
○[illegible]宗[illegible]
[illegible]人は右[illegible]
[illegible]
[illegible]

書斎花迷り西嶺山青水白鳥之群 七吟生 貪
風烟不滅目孤朱晩巖二更 霍舟漁史
兩中板 米斎漁父
横舟一枝倚清流石裡妖嬈影最幽況於氷裡無
著物金秀清姿敢賦 玄悟

稲花何美千種稲且拙養閑業十畝土耶中本
家家早一生経世間人 杜牧

江南春
千里黄鶯映碧水打山郭朱樓臨面開四百
十寺多少楼烟百十

○丹羽之生用七五里記テアリ左ニ記ス
作稿墨欲乾然不可太悠行草別煙閑雅潤以

而燥以不陵太濃刻革帯太淡則質薄不可
不知 古用墨訣 丹羽孟書

○十項羽百戦嘗先屠雄城陣
○屋敷ヲ広廣ニ安市庭刻黒記 新美之
老女 美年玉家 中老 好年ノヤルノ 表使 ハ祐筆
次 ハ三三方
○色言 メリヤウ色ヲウニイフコトアリテ
版図 版ハイタ図ハヅ 学祖 嵯峨 朱子ノ号ナリ 詩杰 傑ノ字
経帷子 未 親事 事ハシニノリテ記 表イナリ
同庚 同庚ハ同年 伝儒 夫婦ノ子ナリ 夫婦ノ子ニ
まゝノ子ヨキ
贅婿 モライムスコノコトニテハアルトイヘドモ己ハ先女子ト男子トアル家ノ男子ハアトヽ
リ故ヨメヨリテヤリ女子ハ婿ヲモライテ別家サセルソレヲ一ニ豊臣之生云
年僅舞象 舞象ハ小学ニアリノ十五年 紫山之生云 杆城 杆ハ城ナ
キヨシ豊之生云
三槐九棘 三槐ハ三公九棘ハ九卿ナリ 鼎鐘 律名又楽器ニ火トヤキテアル外
アリ己ノセリノ必ナリ 豊之生云

舞馬災 ヲドリノウトニテヲコシ 季ハ別記アリ

一瞬 十二月八日

ラ今ニテハ云ヒ今日ノ今ヲカラ明日ノ今ニテハヲモ今年ノ今年ノ今ニテハヲモ云ヒ

一伏時 岡南先生ノ考ニ伏ハ僕ヲ今カ

腱ヲ見ガル論 沖説ヲ崇ル先生ヲ

腱ハ腱ナルベシ ニツ

三付帝ノ后人皆信ト云ハ宋ノ東坡ノ座右ノ銘ナリ 豊ノ人云

猪熊世上切ル看木雁 (紫山ノ人云) ハ荘子ニアル故ナリ サル雁ハ赤カ山 (ユキヲ

木ヲキラントセシニ節ノタラケテ間ニアワヌ木ニ (キラナンダト云シカ本ナリ不

材ノ木ナリ又或人雁ヲツカヘ (ントセシニソノ雁ナカザリシカバコヒナヤリハ仮ニ

ヌヲトニ云ヲニガシテヤリタリト云フ木ト雁ト二ツナリ 坐中設笑 (ハ来

亀上云ハ (ニシテ荘子ニアリ) 亀ヲツカヘ (テ或人者ヲ) ニ何ホドタキテモ煮ヘナシ (ヘイカヾセント

思ヒシナリ 夜ノ夢ニカノ亀芳帝ニ来テ笑ヲニハヲシガドウシテ女ヲガ

ニルヲガナルモノデヤシレハナ 葉ノ木ニテニルトヒキニ (ルガリシシランデヤミニ

ヒラハナイト云ヲテイワヲモヨキヲヲロバシリタリ 伝ヲ其人早速来本ニテ煮

ヒシハ直ニ三ツ 安ヲニ口バシヲヌモノデヤト云ヲ

白陵林 (ハ紫山ノ人云) 白陵ハ跡ノ異名 (紫山ノ人云) 跡ノ居処ナリ

偽寒 (ヒヲヒ) 命ノ序ニ建ル (ヒヲ) 寒ヲ (ヒヲ) ヲ (ヒヲ) ヲ (ヒヲ)

ニテノコシヤコヽデハキンタニテノコシヤ狼人ヲクワヒトラ人ノ上ニノリカムニサノヽ
リヒモセヲ故ヲリガクトラヽルトコロヽシバキシタニ狼ノ口ニデ一至ニ来テヤノ狼水
車ヲ見テヲリシユヽヤリ人命ガケニテヤノキニ玉ヲクイワキケバ狼大ニ驚
テ逃去リシユヽ命タスカリシト云トハサレノ処ニアリシトゾ　又武人　璞
ノ子ヲ召シカヽリシハタニノワチカヲテヽニガヽヲノ毛ヤト尭（玉ヒケバ解ニ
善ハナキヤトヲシカ（シテヲ璞子ケシ此解不ヲ尭ト尭玉ヲ武人云崩ートアリ
ト云タレバアヽソレハ崩ノクサリタノチヤトテコタ（玉ヒシトゾ
風　豊臣君云岡田先生ニ聲ノ字ヲ問シカバイキヨイト云タチヤト尭玉ヒ
シニ何人不拘板ノ板子ニテカヤウ〳〵ノ処ニアリト申ケレバアヽシカリシハノコノ
ヲチヤト尭玉ヒシトゾ
紫山先生云　朝鮮ニテハヲシヽキヲスルヲシ料理スルト云ヨウテ先年
徒北人料理　トカキノアルヲミテ大ニ畏レシトゾ
水戸侍医ノ癖狗偽考ト云書アリソ中ニ鑼鼓風ヲサクルヲ七日
トアリ鑼鼓風ノ義解シカネカリシニ故ニ吟味シタレバ鑼鼓ハドラヤ
大鼓ヲ風ハヤセヲ病人ノヲドロカヽヤウニスルト云タメニ鑼ーヲサクトアリ
ーーー云一物ノヤウニヲモワレルユヽ雅解ヲモイシヲ
青蘿蔔　丸花弟家方名方字ヲ入ヤカテ出来ル　尭雨先生
云自ラ〳〵ニワクルヲ
山侯鰭　山侯ハ山ケ国鰭ハナニヲスセカケ國ノ者ノ称ニセタル十三ヲ云コヲハ故
ヲヲヲヲ今ナニヲスヲヲナノトモ山種ヲ十三ヲタルヲ山ーヲ云ル
再煎　ハ色ヽ説アリテムワカモヲシ此ニ多イチタ時偉ヲサラヌト又偉ノ薬
ガヲイル故去新ニワルヲ　無瓜ヲ水火ノ前ヲ水ト火ハ消カ其ヲ大ル
ノヲヲ
○　周迪　ハ十吹
やそちあまて山ほくのしむナハ
○　再到　孤猪
白髮重来一夢中　青山不改四方空　自為帝国興亡寅

山寺ニ旅枕猶聽半夜鐘

蒙潤ト云人寒山寺ヲ再遊スルニツキ詩ヲ作ルモイコレヨリソノ詩
志レヨリ一句ヲ記憶ス　一声聞雁（ヒヲ）啼催満天霜

上寿ハ百年　中寿ハ八十　下寿ハ六十

初度ハ四十以上ノチヤウドヲ云　四十ナラ四十五十ナラ五十トハシレナキ外ヲヨメー
ト云　楚辞ニアリ　倩四十ハ初老ト云　四十ヲ賀スル宴ヲ和漢トモアレ共アルキ外ニナレ

聽雨　蘇仙

少年交友重豪英　好理好文兼而評　志去日奈唯夜
雨焚香卧聽盡三更

又

遠樓題壁　山琴竹瑟　支枕幽齋　聽雨　豪情在鄙陬家
時時七年　無百不首　ヒトツ二首ツヽリ時ハ茶ヲ行ヒ起自ノ作ニナリ　時詩ハ於自ノ作ニナルト云　語

ラ世玉ヒシヲコヽシレル又　悪聲　聲ハ人ノ悪キ事ト云ヘリ

砂金ハ（ワキノ）ケスカ子ヨリ日本ニテ（ノ）ヒロイ（ノ）ヒ（ノ）ヒ（ノ）ヒ

醫術毒涉疾醫醫稱内外一敎其敎導後進也亦
唯於此其方峻烈其術剽殺固不易學者也
於是遊余門者珠璧思研精敎換裘葛二者絕
以熟焉故余之謝子弟輕薄之徒以其道之絶
傳也竊比諸義元仲之人禁之云今吾子自幾方
來從遊以年熟通方術余深喜其去之舊耳
以見也因授家書若干卷若夫用藥烈施劇殺
各嘉自之力敎之邇懈而授余家之方術猶
逢之掌矣古與

伊東遠卿生　峒山　稱林　築哲□□

古一枚唐我に記し小宮東先生三アリ出見るすり此小宮水
先生の諸ヶ名なるし先生嘗ヶ

○蘇東坡之語　常謂一年野有死子伝時記之失或可有誤　盛傳ルヲ
自今已往早晚飲食不過一爵一肉有尊客則三之可
損不可增有召我者以此告之主人不從而過則止一曰
安分以養福二曰寬胃以養氣三曰省費以養財
○方是而薬味適可例而劑不平均之皆不儀薬与不就
而之所敎也　薬遊り方
○木本李氏藥菓　紀州ノ人ニ駿河ノ人ニ家傳　今而嗜脯美ニ過ギ不及舌
雞卵　丸薬或六箇　黄白共ニ煉六文也寒中陰乾又　黄柏末　十両
鹽蓮肉　方　帰　熟地　干姜　連肉　山椒　黄連
桔梗　烏梅　古八味各等分　水煎合後飲下
古方不知則　山椒　薄荷　古二味等分　煎而合矣此方
木本氏スイダシ藥菓　丹皮　柳子油　白蠟　瀝青　古二味
回金膏　膏藥　膏藥末　川芎末　松脂　黄蠟

○江戸黴毒 臺葉

山帰来 四十日七服三合、 薄荷 防風 連翹 熟地 苔葉

右六味 五合入二合半ニ煎じ後七合入三合半ニ煎用

右ハ花柳童貞ノ中ニアリ

紫根加犀 産後 血筋

駄毒剤加連石 膿瘍加千連柏 潰瘍 五倍子用 蝦蟇瘡ニ用

夏枯草剤 コブ瘰癧之類

紙煙剤 痛風有熱ニ用

清膵剤 茅胡湯去参朱ト加茯 朴青 草葉

右同前

○三号秀 冊子サウし 俗草紙 雙紙 陳ハヤク 俗ハヤク 假名ヲ

本サスギ サンジキ 棒敷トカリ 甚後ヲ 役小角ヲエンノ行者 筆ヲフンデ 筆ヲカンサし

警固ヲホンダ 英田ヲエンダ 弱ヲホトンド

片假字ノンモ平假字ノんモ後世ニ出来タんニシテ中昔ニテハコレラノ假字ハすわりし故ニ 頭昭モ未ハ子え假字ノ文字ナレトモ云リキ或人ノ条モノ草屑ノ多シ見タり是リ蜻蛉ノ記ニ必和トんべキ処ヲんト書ん多キサドヲ思ハれンコトヲ

ホヲ ヲ ヲ

ヲ涅槃音ニテ字侵ニ圓点ヲ加フ是ヲ涅槃点ト云リ此四ツノ差別
カ音ニテイヒ梵ノ阿字短声ハカシ其字ニ彼仮点ヲ加ヘバ長声トナリテ
アヽ也空点ヲ加ヘバ大空音ニナリテアヽナリ是ニ三内ノ差別 涅槃点ヲ加フレバ
涅槃音ニナリテアヽ心 下異
（ユヘリノ字ヲヤリニ字ヲ用ヒタルヲ一リ）

四声ノ事

漢国ノ音ニ四声ト云コトアリ是ハ仮ノ国ノ音ニモ大ツカヲ如此キノ差別ハアルコ
トナレ共其名ヲメテ、某声ニシト定メ云フハ有ヤ無ヤ他国ノコトハ知ラズ漢土
ニモ点ハナケレハ無カリシヲ梁ノ沈約始メテ平上去入ト名ヲ立テ詩ノ音ニ此
四ツノ別アルヲ知ラセ先ヲヲシテ四声ノサダメアリ 下畧

○字分歴身心仍移居安任命復何疑出来大名勇猛達
仁者能手無得知 古ヨリ
不苦者有智遠仁者難ヲ
（勢ノ杖技韓夫人ノ力人九コシ）

○笑府

[illegible]

弱展視 雑道 栗和 [illegible]杖 一点托生 索債 衣食缺 [illegible]家致津
千菊 却手帯 秋去 一暴冨 [illegible]
[illegible] 更曹 壇日 [illegible]下 [illegible]
[illegible] 壇日 [illegible] 箸子 [illegible]
[illegible]

[illegible]

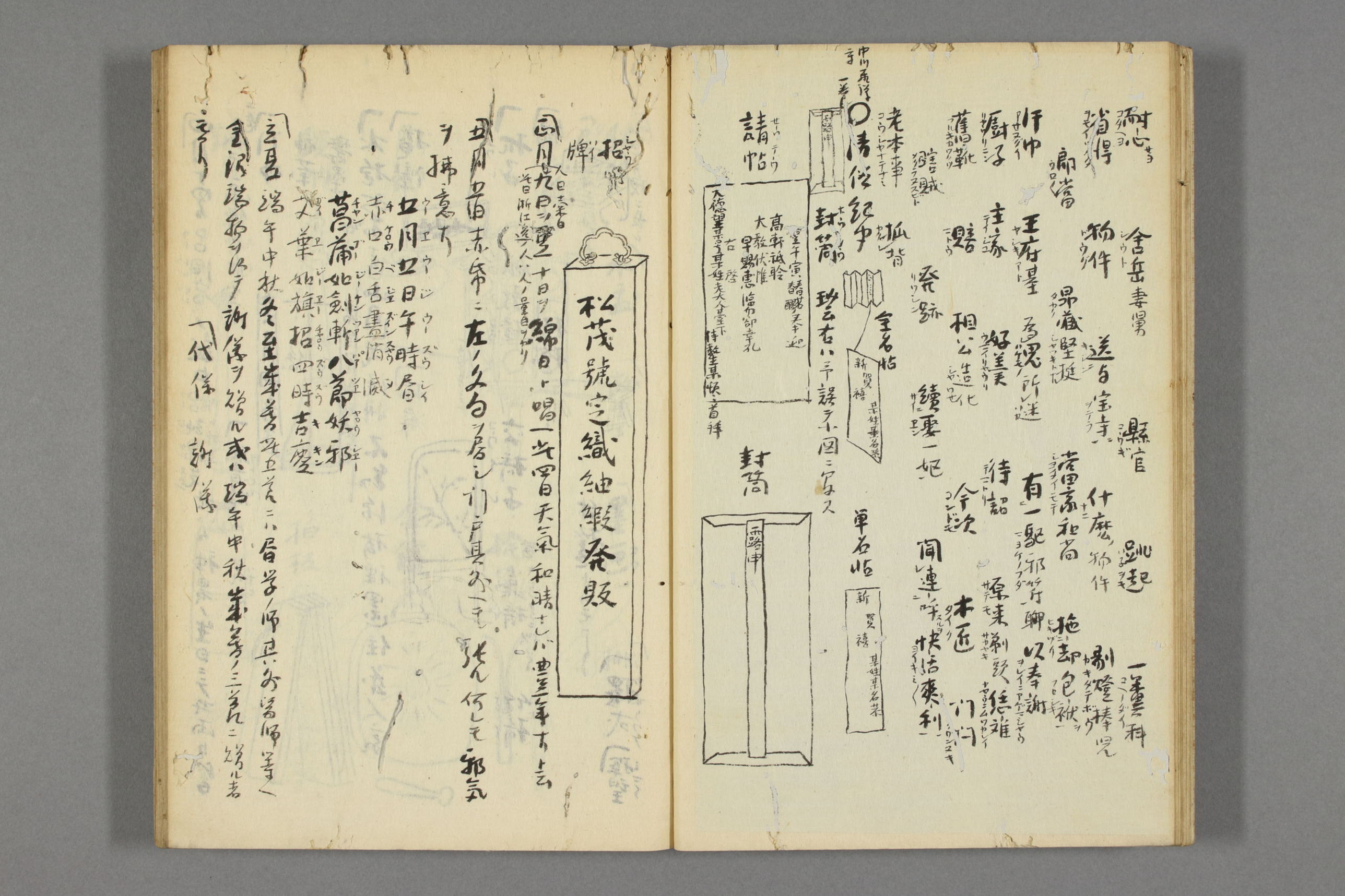
一掾 八幡九仏十丈夫 善道 撥一屁 [illegible]
去。 [illegible] 館師 [illegible] 一蒙師 [illegible] 生辰 [illegible] 酩酊 [illegible]
[illegible] 把妻 [illegible] 東家 [illegible] 蓬灼汗出 [illegible] 酩酊 [illegible]
[illegible] 只得 [illegible] 海錯無数 [illegible] 受用太過 [illegible] 敗不任 [illegible] 結果殺
[illegible] 肌巴 [illegible] 連揚数[illegible] 先在家下 [illegible] 酒[illegible]
[illegible] 盛饌 [illegible] 小仏 [illegible] 次早 [illegible]
[illegible] 千口類 [illegible] 偷児 [illegible] 編模 [illegible] 哭[illegible] 世詩知 寿子 [illegible] 褌史茶 [illegible]

○書肆ヨリ来ル反故紙ノ中ニ左ノ詰アリ伝テ記ス文ノ半ヨリ后
テアリシ故前文ハ不知故ニソノ侭ニシテ不[illegible]

南法ノ却ツテ信心ノ妨メニナリ
[illegible]ニウツレツクリ一ヒラセトナカランアトニデノカタヘニコリ
仏ヲ世ニ[illegible]ノコシテヒタスラニ弘院ニカレツクタコリ氏ナレ
三月廿一日

京ハ法印西六條西光寺宝物也是ハ[illegible]七十三ノ位年[illegible]
位方如此ニ[illegible]

○[illegible]羽曽子[illegible]ケフ白ノ夢ト斗カヲキテ身ノ入合ヲ少人ヲナシ
点時候
[illegible]
[illegible]
[illegible]


舍弟妻男
縣官
物件
送状
宝寺
什麽物件
帰蔵
堅硬
蒲田高和尚
有一駆邪竹聊
以奉謝
施
御色被
剌繃
剌繃
仕度
王府臺
主家
蒲鞋
相公
好美
待詔
今次
間連
快活爽利
本匠
門門
一筆科
蹴起
老李車
抵背
柔弱
繕要一妃
清俊紳士
封筒
珍云古ハ三平誤テ不図ニ字ヌ
全名帖
新賀禧
請帖
高軒祇聆
大教伏惟
早賜恵臨部幸乳
封筒
露申
単名帖
新賀禧

招牌
松茂號定織紬緞発販
同月九日ノ雲十日ノ綿日ト唱一光冒天氣和晴ナレバ豊年ナリ云
五月五日赤帝ニ左ノ如ク居シ門戸其外一切ニ何レモ邪気
ヲ拂意ス
五月五日午時屠
赤口白舌畫肉厳
葛蒲如剣斬八節妖邪
菓如旗招四時吉慶
立夏当午中秋冬至米美五平五美ニハ昼夜ノ帰其外諸帰等
金沢瑞泉寺ノ所作ノ銘ハ瑞年中秋米美ノ三美ニ始ル者
ナリ
代作 新作

四月十四日呂洞賓ノ誕日

呂純陽先生ト称ス

其ノ日神農ノ生日ニテ世間皆

家ニハ画像ヲカケ

門神

神茶

鬱壘

九天日月南斗星

孫

月

萬里覓親師太平

水槍

山国式

任斜

不知

掩障

掛屏

榻

机子

硯盒

板櫈

交椅子

鼎椅

竹椅

木櫈

擺式

探望

伏俵

眉架

二様アリ

雲鑼

水盂

墨画

拍板

撞子

金鑼

月鼓

鎖吶

銅角

一名喇嘛

喇叭

調羹

茶鐘

茶罐

消息筒

有画

有画

消息子

抹布

抹子

牙竿 一名挑牙

茶鍾

春盛

肥皂

硬杵

小碟

茶焙 一名茶焙

火斗

火把

銅器

柔燭呉火刀

石火刀

錫仔斗

木炭

漏斗

烟筒

保雲

身便銀

徹底吾等

官程

問屋ヲ行戸又行家ト云

討債

滞債

三脚馬

馬桶 一名浄桶

毛坑

天花板

仰塵

玻璃

弱箒 一名夜不収

舗面

鉄杓

主管

紙件

低借

賄賂

照管

焔硝

幸銭

負主

船宿ヲ船戸ト云

一井行ヲ觀

行ト云ハ塩ノ意和字ニハ河ヲ[illegible]

「鯖京ハ三そく或ハ五節ト　塩ヲ打ツ　是ヲ打塩ト云　鮒岩モ同シ

節ヲ大そくト云　立春中秋ノ二そくヲ小そくト云

「本磯　そくニテ云モミヲトリ　「土俗　俗ニ稲ヲカル　「蓋　宮　つくかたヲ云

「竹筏　「布　「浮児

「宮　擬ハ凡田一畝ニ付テ米一斗　程　税ヲヨウサム　尤上田下田ノ差別アリ

米三ヲ細ヲトリ　畝ヨリ　田租　一畝ニ付テ凡一石ヨリ一石五斗ヲ一ニテ

不同アリ　言ハ一畝ニ付一石五斗ヲ二石ニ成ハ二石三斗ヲ一ニテ出ス

「物　人別ヲ花名ト云　戸別ヲ花戸ト云　花戸十軒ヲ一組ト云テ組ノ頭

戸頭ト云　戸頭ヲ十軒ヲ組ノ頭米ヲ催促シテ取ル　其戸頭ヲ

人ノ頭ヲ里長ト云　五里ノ大小ニ依テ里長多少アリ　其物ヲ取ル里長ト云

「品級頂帯　「雇役　「包紙

「雑極　「長者　相場ノ事

「脈枕　「脈禄　「脈床

「金ノ上品ヲ足赤金ト云　正金真吹ト云　真次ノ九程　一歩ハ八程　二歩七程ト

シ極下品ヲ六程ト云　量目西俗ハ五匁目以下ハ斤ニアリ　分厘ノ小切ヲ

雲碎金　紫　物シテ金ハ国ノ珍宝ナル故　平日用ル物ハ西用ナシ

銀ハ元ト三双位ヲ以テ　ヲ銀ノ金ハ足赤金ノ割ニ準シ十四五

「銀ハ元宝足紋元糸ノ名目アリ　何モ真吹ノ元宝ヲ足紋ニ鑄ル

ハ銀ヲ元ヲ元糸ニ鑄ル　紹十匁ニ凡四匁

位ハ三ツ上品ヲ上品ヲ中品ヲ　下品ヲ三軽ト云　三軽ハ元糸ノ

割ニテ一割ヲ分　蓑　疑　元糸銀ヲ五分蓑ノ義ナリ　元宝ハ一

挺量目五百目足紋銀ハ三十三匁　元糸銀一挺量目十一匁　元宝小

粒ヲ碎子ト云　又俗銀ト云　元ハ八角ノ切ノ形ニ云

「第一解ハ五斗二解ヲ一石ト云　「又一撰ト　一石代銀凡三十五匁　程ノ外

北方ノ升ニテ五合　撰ニ当ル

「茶一斤中品ノ所凡銭三匁五分　吉品ハ三十目　四五十目ニテアリ　壺井雨
前武夷ヲ上品トス　「煙草一斤凡銭　四十文　但　所江ノ者ヲ上
品ト　「酒ハ一斤凡同　三十文　三六六七十文　「種油一斤　凡五十
文　麻ニテ炷油　菜油　如何ヲ種油ヲ用ユ　種油ヲ菜油ト習フ　菜種ヲ油トス
「下駄　右一人　善ヒ方一人　差　行　三四十文　三人ハ善シ　三人合セ
サレバ　五文　ホドニテ安ク　善ス　尤名ヲ千通　皮　菜　ウシ　内名ハ　生　ホドニ
「中戸　百人　特　三ノ高　凡　十人　程　サレバ　一ケ年　善シカル　三世　ホドニテ　ヨシ
「麹ニテ　酒ハ　麦ニ　入　斤目　三ノ麦　ヨ　ス　五斤入十斤入不同アリ　亜　以　大
十斤入一麦　三麦　麦ハ　五六ヒ　将　「火腿　猪ノ腿　千ホ　「回手　即撥　美盤ニテ
一品ヲ　鉢ニ盛
テ　ヒ　上ニ
ナラク
「拜帖　請茶
「客ノ名ヲ　乃　数ヘ　ル　銭　五　五　五　ヘ　ル　ヲ　回　数　ヘ　ル　「祈祷
「歓待　湯ニ　「饗　「理来　拜新　「業教　息　「賛
「昌　童　管　童　トモニ　ヒ　ノ　ヒ　ル　「封筒　「賛
「賛　係　「俵

一　鶏ニ供　奉　ル　重　係ノ　左　右ニ　文　日　三　年　君　料　星　像ヲ　安　置　ス　ル
ヲ　ヤ　リ　此　ニ　神ハ　ホ　テ　文　ヒ　ヲ　ン　ト　ル　ン　ル　ン　ル　ン

〇男子生レテ三日目或ハ百日ニ名ヲ付ケン男子ノ名ニハ阿福阿壽宮若ナドイフ吉利字眼ヲ用ユ吉利字眼トハ目出度文字トモイフ

〇十歳ニシテ誕生ノ祝ヲナシ諸客ヲヨブノ祝宴ヲナス

〇包頭

縫百　再醮　貨包　賛婿　風包　烈女包　娶人　一二ノ妻人ト云又中人ト云

〇祝方流儀ノ上二三ヶモ延テ古日ヲ祝ヲ天德月德ト云

〇許嫁

影膳盃　仮揃　修代　聘定　又記姻ト云

〇婚礼ノ日ノ向ヲ送ル小サキ湯桶ニ入テ数十羅百羅ノ菓子ヲ送ル

〇同月ノ送菓トイフヅレテ是ヲ受ケ菓トイフ菓ハ本形ヲ移シ植ヘシテ子ヲ生ス故ニ古ノ人婚ヲ結ブニ菓ヲ用ヒテ礼トス有キ必ズ送ラルカ

〇冒翰男家式

初封礼帖式　用梅紅全帖　茶求　出茶

茶求　某某郡年家某姻弟某姓名端肅頓首拜

台命

謹啓

書翰女家式

謹啓　某某郡年家某姻弟某姓名端肅頓首拜

台命

封筒正面式

礼帖封筒用大紅紙正面金箋寫全啓二字

全啓

接縫用糊牢貼ニ不封

雷路中

封筒背面式

送艇　二三遊　結び　送り物ノ事

戒指　俗称ス　実ハ手釧ト云　同一ノ事アリ

回帖　巡回ノ帖

手鑑　針線帖

做親　一日

岳父　花燈　拜帖

上巳　諸生　不敢　合巹

美良娘　乳母　諸生　花娘　信娘

前書　合巹ヲ打出ス　二ツニ割テ手ニ持ツ　髪生ス　相撲ノ酒ニ　程ヨノ二ツ

瓢アルヒハ金瓶ニテ造リ中ヨリ二ツニ割テモチユ

不四二ツガセ　不四二移シ合セテ　新人　二人ニ一所ニ呑シム　是ヲ合巹ト云

敢笥　移玉　音坐　賞盃　使ノ者　誘怡

誘生　我坐　豈敢　豈肯　不敢

通夫　小廝　得深　姉妹姑　人情　公姑

一廳　考カリ　先正面ニ　蜂猴圖　蜂猴　蔚侯ト　同音ニ　実ハ　或ハ祝ニ意ノ

文字　花鳥ノ　物ヲカケ下書　ヲ数ヲ心ニテ　花鳥ヲ用ユ

封筒正面式

謹ト某日敬具杯茗奉迎

高軒側聆

鴻誨伏惟

恵然早臨昌勝榮感之至

右啓

太德望某姓某老大人　臺下　養晩生某姓名頓首拜

某姓名老大人帳下

茶謝

前席盛饌

某姓某名拜

書面式

数日不面

足下屋梁顔色無刻不在念也

足下倘亦念及鄙生乎請移

玉趾早降話叙衷曲即刻許聽

台電

某姓某名具

某月某日発

書面式

足下屋梁顔色無刻不在念也

足下倘亦念及鄙生乎請移

玉趾早降話叙衷曲即刻許聽

台電

某姓某名具

某月某日発

同

答

復

別来数日真若九秋之隔忽辱

恵招恨不能翔飛

左右適縁冗籍姑容片刻即當趨

命此

復

某姓某名

即刻

某ニ老長兄　台展

画蓋　却天井ニ画アルヲ

請干　ヲ出シ

点心

酒モ酌ニナレバ数盞ヲ出シ数盞

ニ接シ者自多シ詳ニ

或器拳酒合ニ

好時候請過来

猜三ヲ催シ酒ヲ進ム

今日特蒙光臨多謝〻〻

微儀　請留守　洗厨

跟従　主人　留守居　雇人

馳走　西京ノ料理　番人　是非伝

驛站　郡合　物ノ名ハ新文ノ知キ

「緊要ト云軍様等多クノ人進ム時切ノ事折ス中ニ是ハ凡百人

六百里行ト定ム

「火牌」火ハ速ナル　至極急ナル公用向ニ用ル文書ノ上ニ鶏ノ羽ヲ

翔ミテ怡ル様ニ急ナル印ヲ羽ヲ一枚ヅヽ付但一枚ヨリ七枚ニテアリ是ヲ

火牌文書トスル　右ノ緊要ノ節ル所ヲ

「旅店」村落毎ニアリ是ヲ新火房　古火房　打火房　銭　御事　旦一人前ニテ　半文

或ハ百文ト下ル　「飯」豆腐類一種魚肉等ハ其コノミニ応ジテ何程モ

出ス此料ハ別ニ拂フ　「水路」水驛　何宿所　堺頭

御壇　宿所ヲ汎地ト云　「奸商」　宿所ヲ汎地ト云　宿所ヲ汎地ト云　「海防廳」

宿所ヲ汎地ト云　「路引」

「賻儀」

「喪礼」

「唐ノ喪」黄ノ青草一百ノ藁

「前墓」四十九日ヲ過シ藁ヲ供フ　「藁」魚肉等ヲ云

「葬」棺ヲ送ル　「素」素菜ハ菓子菜　「女」送葬ノ時

炊食ハ金ノ器ニ盛ル　「菓」菓子ハ餅ヲ云

「柩」ヲサムル穴ヲ　「位牌」位牌ハ壇ト云　「金井」ト云　「天地宮」ト云

「葬」終テ線香ヲ焚　「燈」ヲ焼シ　「寒」衣紙　「大金」紙ヲ焼　「冥」衣紙ニ衣服帽子

大金紙ハ金銀ノ箔ヲ　「紙」　「銀」紙ニ衣類ヲ焼　「他郷」ニテ死スレバ送葬ノ時　「柩」ノ上ニ白キ

「雞」ヲ一番生ノ〻　「結」ビ付置

リコレヲ　「鶏」　「魂」ヲ故郷ヘトモスクヤ心ヲ

「年忌」ノ「週」年　三年　十年　二十年　三十年　四十年　五十年　百年　千年

ト唱フ　○清明中元十月朔　冬至　此三祀ヲ兄弟ト唱ヘ亡霊ヲ祭祀ス　又元旦　仲秋

「祭礼」　「先祖」ヲ祭ハ正月三月十月　定式ノ祭祀ヲ　皇至尊ヲ至ニ祭ル

アリイツレモ家朝ニ一ニ祠堂ヲイテ祭ル　「剪彩」　「剪彩」又　「像」生花

吃素　「懺悔」

「真容図」又行楽図ト云　経蔵　城隍　看経

加封

「関帝」ハ三国ノ時ノ人ニ関羽ト云フ　武運ノ守護神

「天后聖母」ハ天妃ト云又媽祖ト云　専ラ海上ノ守護神

傳信

唐山ハ禅宗　律宗　天台宗十三ヒ　道家　律宗　天台宗ハ五ツ

精舎　進山　應付僧

「律宗」甚稀ナリ　天台宗ハ天台山一山ヨリ三ツ外ニナシ

「雞冠」等ハ僧家ハ執行セス　道家ニテ取扱フ道家ノ本尊ハ極ニテ

三清　上帝ハ中央玉清元始天尊　右ハ上清灵宝天尊　左ハ太清道德天尊

「祝」

「旦那」ト呼ブ　ハ其アルヨレナシ　当時ニテハ檀越ト云ニ呼フ

○当日花　花ヨリ多シ

○義ノ日ノ事　二ツ有　左ニ記ス　木魚氏ニテ有ル

信義ノ為ニ信義ノ為ニ生ル　信義ノ為ニ死ル　信義

人ニ対シテ信義ヲ誠ニ尽シ　人ニ対シテ信義ヲ誠ニ尽シ

お世話ニ成ル　ヤウニ　多クハ　中ニ

行ハ　弁ニ　ヨリモ　信義ヲ　人ト

信義ヲ　人ト　人ノ為ニ　信義ヲ　誠ニ

人ノ為ニ　信義ヲ　誠ニ　尽シ　信義ヲ　誠ニ

場所ノ生活ニ　ゆ　ヨリモ　只　其ノ　信義ヲ

後ニ　ハ　ヨリ　ハ　ヨリ　ハ　ヨリ

ハ　ヨリ　十年　以ニ　ヨリ　ハ

義

父母ノ恩ハ　ヨリ　ハ　ヨリ　ハ　ヨリ

方ヲ　ヨリ　ヨリ　ヨリ　ヨリ　ヨリ

後ニ　ヨリ　ヨリ　ヨリ　ヨリ　ヨリ

[illegible]

[illegible]

一休

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見
○鍼灸高下 紅裙舞 玉筆性来 筆神掩
○桜井松山 高下 市川 ある事 市川の弟子
鶴鳴 市川 ある事 三郎兵衛 ほ
名古屋 仲恒 新井 市川 市川の門
入らしとり 又千代 市川の門に入らしとり 芳恵
芳恵より即千市川の芳恵すしとり
○鶴城 憲柴 序に 紅 紅 紅

詔

差

人氏

禮

式

補

通

交

飽

次

追

禮典

德

諾

和議

緑

江

諾

度

制

化

皇

任

恩

誓

服

化

帰

服

任

奉

朝

布

正

命

道

役

事

服

命

卿

弱

館

宥

卿

狂

詔

封

化

政

任

播

布

正

命

道

帰

化

服

臣

誓

度

制

化

皇

任

恩

つくしるどの面の（垂迹）つるぎ（垂）

名と云ふ（不知名分）　いく（接）　ふ（待）

（是）

○南山名勝図会六巻（故業蔵堂木世庸先生遺文編述）編述　法橋岡田玉山尚友

蠡角門　蜀閣羽之像　結摸馬元欽図　天子のぎやうしり　日盗賊に例れ物（さえぎり見て吠）　陸路（クヌガチ）　議（論）　郷（ミヤウギ）

刘字真陳希夷ニ遇テ仙酒ヲ服　醉テ忽チ玄楼ヲ吟ん　屋氣楼一日蓮蓮　話（コト）

書ノ李字素　氏性ノ学ニ通ズ世ニ譜ト号ス　元ノ朱顕　足帛トイフ元文

同名世人　鉄漢　欽駄馬（ダチンムム）

庇直者ノ民田七百六百千一百四十二頃　米八百八　賦銀二千九百六十一万

一百一両　糧（カテ）八百四十万六千四百二十二石　各有寺　僧（サウ）千百十四万五千五

百七十集　民（ヒトカズ）戸（カズ）三千八百八十四万　人口（ヒトカズ）四万六千三百五十四　民口（ヒトカズ）四万有三百五万

○宜雨堂詩集　米沢　蘭堂神保行簡子素著　男　貞輯

河園

河園夏畦病　松窓轉傲然　論文會朋友　好古伴英賢　節物

文相謝　吟哦自作篇　人世事垂釣送浮年

夜坐

莫言炎熱苦　晝夜似川流　昨日千三章　樹今宵一葉秋　月光

林表上　露滴草頭浮　白髮　孫無改　幾回更蕭疎

初秋即事

植樹待清陰　安牙池引水流　孤雲送暮色　一雨入初秋

秋

剛直君子性　平生美　老情　如蓬有道主　限捷　素楚兵

單ニ因ル法　双ニ当ル医　医師　単双情不一　直突　賤妾ハ

○集外居士 佛法深ク信ズルニ生ヲ以テ安スルニ死ヲ以スト云フ

○南部集初編ニアリ 日本稽上歌

雄都大道通萬里天下山海自此始 日本ハ東ノ本稽面
青山東西水天覓 ヒノ西ノ極遠千載傳芳
阿蘭陀人謹度千旌不二此往過前駆唱揶
後車心穀轂手肩摩 弱冠阿肩摩角ニ乗御曲豪強
問武備常西刀 蕃市酒人眼帝視 勢豪劍客賞螢
列侯美女後姫美繁華子弟遊冶郎 相看皎皎
[illegible] 昭君無奈出塞 [illegible] 千人逐
即今家業[illegible] 東走江海西桃園 家[illegible]
[illegible] 仍[illegible]

蓮池

丹鳳陰陽[illegible]
山間芙蓉[illegible]

茉莉曲

[illegible] 芙蓉出水裏美人出神下江干不[illegible]
去佩[illegible]

○左伝 歌虞殯 [illegible] 曲 具含玉 [illegible] 必 石田 不可耕

仲尼曰 胡簋之事則嘗聞之矣甲兵之事未之聞也

神伯宗毎朝其妻必戒之曰盜憎主人民惡其上子好直言
必及於難 免糟而趨風 疾如風破瓜 蔡店ノ甲斡
○花枝為云 夾七夾八

○南濱先生ハ図南先生ノ子也尾州井ノ政堂ノ
周伯君幼少ナルニヨリテ子息南濱ヲ京都ニヲキ周伯君ノ位見

二来リ然ニ周伯君図南先生ノ閨中ニ入テ敬
図南右アトリノ周伯君即当ス閨中ニ故障ナカリシトゾサルニ依
テ周伯君ハ東海道掛川ヨリ来テ病死セシヨリソコデ図南ノカラ
イニテ右周伯君ノ妹（図南先生ノ妻ノ姪）ヲ以テ南源先生ノ弟子稟ヲカイ
ガノ新川典膳ノ子ニメヤワセラルヨリ是即前之進君也

○催節録　礼物数　以上多田兵部著述也

○著里録　鳴呼　風俗　風俗　雀巣也　出雲ノ国　共歌四海
升平ノ高唱　孤雲　俗　書林
丑夜居考　新恵風　新春　萬里　物美図芳　於　茶味千
門色都在　祥雲陽　雲陽

○蔵類　識　歌一覇

磨墨法　軽行　重按

落墨

落墨法　舟　舟　舟

遠間亦似有殘缺惜哉呼神祠經營自是朝夕勉菩寧慈
精勤久累其功則鬼神必嘗助其誠衷他日必有如數夫
就光彩照水者

右 於本一廣君入阪川氏之門初面初為本朝
古聖道 於りを面仮 述文以述懐懐

東元宣長

○ 夜雲霧花
いうせんさくらの花のゆくへをさてこの夜のわのまと
大木田史話

○ 宿とりて月待ふまとりきり 節操
まぼろしの金鈴光る月ひとつ
夏の月 夏七くおもふ 蛍光うるる
あ蛍やうしろ立て月をまと

月の出をまつとうたまとも
夏の月 夜の間出 丁子風
鶏鳴て帰る小鳥と 夏の月
夏月 遠る 山 高 月
○ 清る 西 出 月 侵 月
おもわ月 しくのば 侵 月
侵 待

清の国の侍 清 とき 八 ちと
○ 本 氏 筆 号 ラ ン ス 瞳 ト シ 清 ニ 熟 ル ニ 酸 ヲ サ シ アラワセル 瞳 物
ナラバ 瘡 ロ ヲ サ ケ テ アラワセル 蘭 方 ナリ 茅 茅 ニ ス ル ル ニ 鍛 冶 ノ 爐

迫ノヤキそん鉄ヲサシコム水ナリコノ水ヲ以テ漬ケバ新アリヲ以テ水ニテハ新
ナシ

○津田氏云 痔ニ三メ分シヲ數ス新アリ云 蝸牛ヲモヨリソウニヲモワン

○本草云 昔秀吉関白入朝ノ日 薩摩川内ノ新ヨリ百里余ニ
シテ兼中ニテ誰ヲモ知ラズ 細川ニテ知ラズ 此車ノ道打ツ
出ヲ云トリヤウ云 故不審ノ遠方ニ可出 面白ク〳〵トツケラレタリ
トゾ関白 ○日 進上水辺 蒿蕎 千年 五月 五日 大江 春武

○日 秋原氏事 黄門 門ヲ薬ニ云ヒ中仰云 「少説可凝」

理火ノ「ウツリ」ヲ「ヲ」ノ「ヲ」ノ「ヲ」ノ

李時珍但言以鹽糝醞釀而成也按近世造美醡法每大麥一斗切作片(キリコ)不得犯水以淨布拭乾夏月用鹽一兩半冬月用鹽一兩待片時醡麥水出再擗乾次用薑橘絲(ブコウ)蓼(タデ)椒(サンセウ)末(マツ)蒸(ムス)飯并葱(ネギ)末(マツ)拌勻入磁罐(カメ)榨實(チリシ)(サトせん)篩葉蓋竹篾(ヘウ)擠密覆罐去滴盡即熟或元水(オナジ)浸內密而胞(ツツム)興李邦立鄭邈相傳矣

ヤキ出サス

ムゴトリ詞ノ中ニハサミコム

(以下折焼ノ言)

歳額(コトシ)

○陸贄(ムツイニセビ子ルコトヲ云ヒ定ル)

○儲副(家ノ嗣子ニ用ル詞)

○信牌(シルシフダ)

雅話譯解

時(シバラク)

軍中ニテメシヲタキ又ハ湯ヲイテ(ヘルヲ)即腦(チ)

暗ハ日ヲタボリシ(サコロヲ云)

芥ハ同ジ貧人コレヲ(ヘルヲ)方ニハ味ナキ物トシテ

史李將軍傳曰不擊刁斗以自衛孟康曰以銅作鐎器受一斗晝炊飯食夜擊特行名曰刁斗索隱曰刁音貂案荀悅云刁斗小鈴如宮中傳夜鈴之蘇林曰形如銅以銅作之無緣受一斗故云刁斗鐎即鈴也埤蒼云鐎溫器有柄斗似銚無緣銚燒器銅銅銚

特字誤恐持孟康漢書註者

右以望大佐子記而之事

○コトヨノ樂ハ大方唐ノ世又ハ隋以上ノモノニシテ又ヨニ和ノ作モアリトミエタリ賀慶ナドハ和名ナレバ和樂ナルベシトイヘリ

○佐井榮山君云

舞馬の突

明皇雜錄云教舞馬四百歸各有名稱曰某家驕其曲曰傾杯樂每遇(ヒ)奮首鼓尾應節唐玄宗敬事

○叩く　如ヤウ　カヤウト同じ

○きく人　チヤトキモ　シワチキネコヲズニ　ニタ

○ふるさとらす　ナニゴシヤリ

○ふるし　詞　ホカノ詞

○叩くる所ろし　トリ（ガナイ

○心を　コロモチヒ　ヤヒデ　何ゾトイフト

○ふるしく　俗ナ多キ

○おのがじいき　ヨイヤト思テ面白ガリ

○たくさんとうらぼせる　ケツク　イツソ　トヒン　デ　ブコウ

○ふるしく　ニンニン

○ロの　ツウレイ　ロでの世の人　カタダンチガウ　オレガデシ

○ふるしく　ユキ　オモハレル　ヨイ　ニンニン

○おのがとしこと　オレガデシ

○ふるしく　ソフニクイ　モノ　ふるきこと　バ

○ふるしく　秋コトバトオナジ　アキ　ハ　秋ヲカイ

山ゴトリ　詞ノ中ニハサミコム　コトバ

（以下折焚ノ詞）

○歳暮　ヒトヲ云定数ノ

○淩　ムタイニセビラカスコレヲバ　ヒヒ　ツケルコロ

○照雲　手ガタシ

○班幔　幕ナルベシ

○脂粉之徒　屈原楚辞ニアリ　ワライモノ

○雪時　シバラク

○一臘　一ヌシ

夜ニハリヲスル　モノ

○一伏時　シバラクノツヤ

○冲　ヒシカキシ

○軍中ニテメシヲタキ　又ハ　イテ

○臘　（以下ノ書ノ字ノ書ノ）

○暄芥之恵　愚昧ナガラ真実ニ　タメヲ思フシルサコロヲ云

義ノレト思ヒ富人ニオリリ　貧人アリテコレヲ殿抹ニ申上ントシ　暄ハ日ナタボコリシ

先方ハ千カウトニヌリ　ヌルヲ見エヌリ　芥ハアノ方ハ味ナキ物トシテ

○コナタノ楽ハ大方書ノ世又ハ　儲以上ノモコシヤリ　又タニ〳〵ニハ和

俗モアリトニハ　賀殿ナドハ　和名サバ　和楽ナンベシトイフリ

○清井紫山君云　明皇雑録云　教舞員四百歩者

名称曰某家驕　其曲曲曰ニ傾杯楽　毎曲　奮首　鼓尾應節　唐云宗教事

○泡服　水ニヒタシテオイテノム也

○加解毒湯両停　一両ハ両前ト云ト同シ　停ハヤハリテモカケル

中何ソガ九フルト外ノ害ヲナス　承而割ハ害スルモノカ

火ナラ水カソレヲヲサヘル　四行ノ通ノ例シ

○向若情愫弥陵泳迷　情ハ脳ノ俗字　愫ハ心ノ俗字

オカ　陰オ干屠釣之間　羊祐表

○桔据　鞅峯手　詩注之字

○襪線之才　瑣言云　偖留韓昭琴ヲ書合画射法悉皆涉猟書台

瑕曰韓八座藝如折　襪線無二係長

○餒氣　餒ノ俗字ソウノ音　飯壊　仮借湿熟ニ

○太似離　濯　紅緋

○擯所　擯　蘿　闘　溝　土

○丁美病　丁美病ヤセル

○隨分紛紜　糸ノモツレ

○款時　コロヒ

○浹辰　十二辰ノ十二時ノ二時ノ二時　二七日ノ

○伊蒲饌　拾遺記云楚王英以縑贖罷詔報曰其還贖以助

伊蒲塞葉門之饌　注曰伊蒲即優婆翻為近住言受戒行堪近

偽住也

○亟陰　亟ハ十ヲ云ト

秋長子孝信

○小孩　遠ハ子孝詞

夫学者の源の道とそ　天地の本末と

孩子の業と云ふ　孩子の内の文字と

ことわりの色　孝子の孝　夏子の

ふるまひ　少の思ふ　所の妹を

源の凡信を　この　孝の咲　いつまも

学の孩子　孩子の稚　孩子の

其芳子　只家人　古きとて

そ　信ふる　道を　学ぶ

形を　古きを用ひて　新しきを

形を　きを捨て　一不の道を　学ぶも

ことを　ふる　道を

一位と名る世も志をあらはす人体歩を主とする者の志尊きは学問の能水底の魚をも心味ひ者百年の外に見る数の変化山谷のつゝ口つゝあけくれ

○木下長左　元る東山寺　京都地下宇治　岡山修治

加ゆゝ里の国の末の世の賢

松平越中守殿御の歌

山水の心も知る初春の雪

此歌日ハ三度名きゝ天下平るゝ世なれども高き

歌の　心知る人も此歌より出る事多く

家とはなれ　木下長左　志しなるけれ

志は貧福　生此歌より

○煙鎖抄　壱冊　青黄赤白黒の墨

○猪葉記　写士佐学記　永享佐幸記

保元物語　士佐の記　柳営密秘記

○浅井家初学課誦之　程限　予幼稚の内学しをきしを此二冊に係て越文字多り其侭誌す

大学　二十七枚　右　但一日壹枚ノ宛　論語　二百八十四枚

孟子　三百五十五枚　但一日二枚ノ宛　中庸　五十三枚　三百十一日

右

詩経　百八十枚　書経　七十七枚　二百四日

易経　八十三枚　春秋　八十九枚　礼記　巻四十八枚

右　但一日三枚割　小学　百四十四枚　家礼　八十四枚　五百三日

孟恩録　百七十八枚

右　但一日四枚宛　百一日半

蒙求　少百少六枚　唐詩選　百卒六枚　十八史略　三百廿四枚

文選　六百七十五枚　但一日五枚之宛　少百七十八日弱

左傳　八百三十五枚　史記　少千百少十七枚　漢書　少千百十六枚

右　但一日六枚之宛　八百五十三日

以上儒者日程　雖弱　相和　千九百卒一日半

大抵五穀五月之数也

小本六経　并　叙六千九枚

右　但一日一枚之宛　六十九日

素問　三百五十一枚　霊枢　少百四十五枚

右　但一日二枚之宛　少百九十八日

難経　百九九枚　扁倉伝　七十枚

右　但一日三枚之宛　六十六日弱

以上醫方必読之書日程　二百三十三日弱

此条より以下省略

一四書五経之業　七百十八日也　然るに習書之業小学既

免る者所謂　記誦詞章　倘使孔子復功業小其力

とも如何ぞ四書の如きものを不好乙也

一少年之者四書之業之何を　朱元之説素性之説

学ぶ者如　剛誦　一き物を熟習也　五経の何ぞ

如く　形識誦　ものを　五経の何ぞ

一上件之程　決美小才の人十二三年より　若可

〇　如く学者の為　設く　上才下才　并年学の不学者

を学ぶ者多年を　屋上　必ず兼ぬる事也

丙辰　八月十六日

正封書

旭山　山田東一郎

數株長松係自保清癯自新風骨使陶令見之
此世間之未必還羨人
詩出五柴遠蒼崖形生必然知清不問琴弦不
吟罷只聞松上月然舞鶴橫偶係[illegible]
十畝茅園柴老生摸山象外邈橫偶係[illegible]
楊隨水孤松形可一枝情

夜雨　宗碧 横井

四望陰陰雲暮暮西山月景象[illegible]
好雪入夜雨異遊衆[illegible]
[illegible]
卧看西象生有興一日傳米一芝餘畫妙如雲
只要疾驅至秋花未接去

又

[illegible]道好便論好壯[illegible]何生在好時能如今此是
菜只責[illegible]秋地黃蘆菔[illegible]
[illegible]集
接去不生遠孤陳未可此又事好必石義工半又
[illegible]柳柳不[illegible]茅陰暴[illegible]
拍[illegible]氣伸[illegible]　朱陳慶
數千年不老[illegible]仙死不人
○新美氏伝　延水十力[illegible]不山者
[illegible]　川芎　青皮　薑芩　甘州　古土味
并　丹水　美良血湯
○如章[illegible]邯鄲氏三[illegible]看天此三記又　十五首一[illegible]
黎風色雨血[illegible]天又晴[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

双茅　蓋茅

詠稲ハ七絶ニテモ律ニテモ作ルナリ

歴朝詠稲迄　近代物語迄　和茅ノ人ハ詠稲捷径　「淺薄之識」　一入門

詩言可後和語迄

一一　攀桂ナドニテうん〳〵し

一首ノ中ニ人ノ姓名ヲ多用ハ点鬼簿トテキラフ点鬼簿ハ

過去帳ナリ　又数字ヲ多ク用ンハキラフナリ　筭博士トテキラフ

五七ノ絶句ニ前茅ノ様トテ一二ノ句ヲ茅ニシテ三四ノ句ヲ茅ニシテ

うん後茅ノ様トテ一二ノ句ヲ茅ニシテ三四ノ句ヲ茅ニシテ

近茅ノ様ニ云フ　廣軒姓ハ茅村也京都柔店ニテ十二歳保元物語ヲ

大国ナリ　蓬壺　一角九尺ノ小ナル人ノ教ヒタリ　今枝幸次

ナラウトモ　廣軒ノ流ニ　京国　一角　一角　一七ノ規矩トスルナリ

廣軒自像之賛

出嗟

嗟呼是何物　酒甕又仮囊　幽居地郭傍　蓬髪

結茅屋　玉女　玉女　玉女　玉女賛疑有誤字歟

廣軒ハ色ニ好ニテ其内標有梅　貧梅ノ香人ハ枳ノ本ニテ作リ外ハ本地ニシテ内ハ黒土ニシテ

リ外ニ梅ハチヲ大小チヲニ七ハ金泥ニテツケタリ　凡鳥　桐切ノ茅入ハ

秀吉公ノ有形ノ茅入ニ桐ノ葉ノ茅入アリソレヲ鳳凰ト称カアルニ

ヲソノ茅ヲ撲し　桐ノ様ニナドキリニテコレラ〳〵ソレヲ凡鳥　桐切ノ茅入ト

唱又　三月　月ノ茅入トモアリ　コハ酒ハ　コリ　ナリニテ十五コレラ〳〵ヲ依

テ　月ノ茅ヲ銘ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

真ノ墨子ヲ墨ニ　ノ　ツニ少シ　墨子　并　墨子ナドヲ　又　墨

上ノ板　并　柱ヲ　ヲ　トリテ墨ニ　ノ　ノ長板ヲ　又　長板ヲ二ツニ切ル

ガ大板トニノヲリ則瓜畳ナドヲスルソノ他ハ和名ハ瓜畳モ有ル

ナリ

幸若ノ城ノ矢拔向ヲ塞ギシハ（以ヲ幸若ニ長橋ノ事）誠ニ嘆ト和泉守殿ト不和ノ
ケヲ起リシトゾ又子供ハ幸若ノ右津領ノ地ノ事ニ付キ此ノ者ヲ氏至テ強
ヲ下リ是ニ藤吉ヲ立ル三代目ノ国君ノ所ノ下リ此ノ者ヲ氏至テ強
常ノ人ヲ中ノ幸若人ヲ捕ヘ死刑ニ行フ伝ヲ聞ク大ニ怨怒ヲ含
ミ津ノ飛脚幸若ノ大手先ヲ通リシヲ捕テ中ノ塩ニ五刑ニ行ヒ切リ放ス
亟ニ送使ヲ怒キ幸若方ニテハ殿ヲ出ル此ヲ通ズ一ミジキニセントイヒ度
ヲ立ニテハ幸若ヲ中城路傍ニ何ノ答ヲコレアラント互ニ四ツリ居メ
リシカ度ヲ立ル幸若ト不和ニ付先祖秀吉公朝鮮征伐ノ節此
ト云ノ船アリシ以来四三代津ヲ領仕ル
紙屋ノ家ハ昔コレヲ中侍ニテ
さて是ハ度ヲ立ノ侍ニ雖ズレヤウニサレバ中所ヲ仕ル
若城矢拔向ヲ塞カセ
矢拔向ヲ塞キシトゾ

中ノ三代目ノ度ヲ立ル江戸成賀屋敷ヲ
ノ度ヲ大ニ怒リ也城ノ内ハ此ノ者ヲ其許ノ屋敷ヲ
子ノ驚ニ就ヘ唯ヲハキカケ右ノトラリヤサレケレバ
ノ指ノ度ノ家ヲ塞ラレシトゾ今ニ口ノ内ノ長ヲトヲ
三代目ノ度ヲ立ル日雅年二百忠信ノ婿ヲ
高橋ニモ又ヅキノ度ヲ立ノ度ニテ今ニ
ニテハ中ニフトクロレシトゾ中ノ一ニ元ト云ハ
ノ接住ニ及バヌトイヒレシニ接住云今度ハ
二接住ニ中ノ度トイヒケレバ度ヲ云
ら田忠元ノ家ハ和ん度ヲ中ス云ヲ伝ト
接住ハ今ノ度ヲ丸ニテ
トリ出ケノ度ヲ中ノ内森ト接住ヲ
リニスヒ家ヲ云此長ハ

三代目ノ度ヲ立ル
ヲ通ヒレシヤノ中ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ
ヲ中ノ度ヲ

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

道すがらの景色いつの行く道にも夜中山言は山道冨士
ふの三ツて初日にかゝるゆゑしよりあこ大夫の義に[illegible]
二の丸（二ツ目）より色ゝ[illegible]の間琴音に[illegible]
数人はかり人みすりの言所きゝ家名ゆゑ孫娘
寺月

旅宿にて[illegible]
○本年実談　　常麻中羽織
中〳〵小山の要て[illegible]（[illegible]）学者多人数[illegible]
[illegible]有中の要[illegible]

「利休自筆の所」　之板　巣鶴　石幸蔵　三ケ[illegible]
「宗達　正家　義生　氏[illegible]
[illegible]
[illegible]

「呂サルは西京云世ニ西京トモイフル[illegible]
刑罰ヲ行フルニ[illegible]
秀吉ハ少き利休ノ[illegible]
屋千かつまハ多殺ノ弟[illegible]
[illegible]
目ヲ伊勢ニ目さしトモ[illegible]
[illegible]
之ヲ

「利休伝ニ高サ[illegible]二尺ツキ（アカルヨリ[illegible]
[illegible]

「利休ノ名ニ　乗石ノ伝ニ　[illegible]人ヲ西ニ[illegible]
乗石より[illegible]

「千家　ヒキ[illegible]師匠　[illegible]

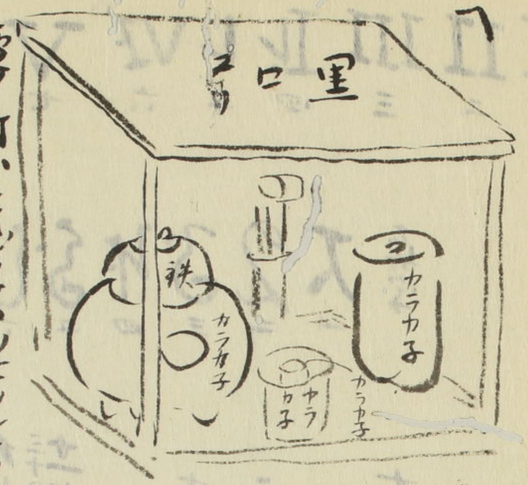
天下一ト云 然シテ 禁裏ノ御師 遠藤利右衛門 利育 去 ⑪ 上云 出羽ノ
同 住 御師 中村宗哲 日カ十御師 浄益 梅王君云 浄益オニ中川
同 柄杓ハ 将監ト云人 万之梅ト云人アリ コモ十御師

〇美人ハ目ヲ以テ目ヲ引ク

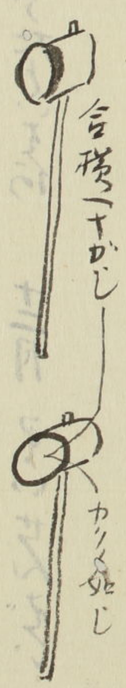
遠藤ノ子ハ古田織部ノ子ニシテ富ハ利休ノ子ニシテ
審ハ遠藤ノ子ニモナル 三代ノ耳高光ノ師範
シ 或ハ六人ノ美人ノ内六ツノ意ヲ目ヲ以テ
ハ育 啐啄育ノ説ト云 美人ハ 遠藤ノ京都

〇茶杓ノ事 浅倉 細川幽斎 出羽 出育ス

ゆの字ハ美人ノ ゆかたて ゆの字ヲ ちよさいも ちくさる人のうよ
柄の中ヨリ ちとり ちくるる ちをおて 目とゆる ゆのふしよ
ゆ字ヨリ おく ゆの茶杓のかたち つの柄の ゆとちくしのく



ちの意ヲ子ノ内ハ茶杓ノ柄ハ
意ニ若狭意ヲ若狭意ヲ若狭（ワキシ意ノ意ノ若狭ヲ意
ヲ云フニテアルカ 即意ヲ意
真ノ意ヲ子ノ内ハ真谷ノ柄 柄ヲ竹ヲ ちの合ノ柄ハ
柄ノ合ノ向ヘ（コヲテシルノヲ 通ノ柄ノ柄ハ めし



煙竹ハ意ヲ ちヲ一クレナイシ

〇千種宣相育浦々生花ノ伝ヲ云フ

〇訳方名所 一けん姫 一免少ヲ ちよぼ
あかすを不詳 ちをくる ゆをする ちをくる きいこぼす
小舟訳方 けいさん ちをつ ちらんす
（女文ニ来ル） おふる

假名

らん　ゆゝた　ゝ於ゆん

十　正月　せがれ
九　三月　まつち
八　五月　まい
七　七月　書らい
六　九月　ちてんだ
五　十月　つたしまの
四　二月　ゆとぶ
三　六月　書ん
二　八月　ひくか書
一　十月　ひとちまの
　　十二月　まいせんだ

真字

十　天
九　の
八　ゐ
七　ゑ
六　ほ
五　へ
四　と
三　ち
二　り
一　ぬ

十戊戌　十二月小の月　十二月大の月

正月元日丙寅

右横頂貴吉西親母君薨殂喪着地三月
宮之元又偽百之本居ノ之宮之
付之日九丁戊冬之十月至日安而御中之親

○左之号毛親之改元自此便アりし革号之宮
讀改元　詔書
昨年　承統御系於今日改元　詔誥某文
仕之文寛政改供將遵奉
聖皇聽
式部大輔菅原長親
卜
勘申
年號事
漢書曰選豪俊講文學稽參政事祈進民心
嘉延　文選曰寤寐嘉猷延綜忠實
藝文類聚曰祥風協順降自天方隅清謐嘉祚日
延與民優游享壽万年
文選曰至於世祖遂享皇極正位居體重言慎法仁
享正

以厚下儉以足用和而不弛寛而能断故民詠惟新
四海悦勸矣
史記曰文武並用長久之術也
五行大義曰壽者孝慈德備然後修神丹延壽命
富者德化所及豊穣安閑

文長・延化

右依　宣旨勘申如件

文化十五年四月二十日正三位行式部大輔菅原朝臣長親

（二字ハ濃墨ニシテ）（二字ハ淡墨ニシテ）

文安元年官ノ官車ニ行ハレ官高ノ位車ニ兼ト居スルノ

○金澤文庫見書ノ目録ニ記スル所ノ如クニ或ハ文ノ里ニ云ヘリ

夫者山乃僧侶ノ名ノ今ハ之ヲ九ノ者ノ姓ヲ手ニ入ル人皇
五十九代ノ天皇ノ時代仁和年中ノ比勢ノ金岡ト云ヒ
ケル人ノ下ニテ叶ハ絵業ト称シ画ヲ能ク不識而擬華故里俗名
之称業稜ト其ノ時七十餘年ニテ寛仁年中法者関白藤

道長ノ世ノ事ノ出家ノ事ノ法師ノ学者ニテ
ヲシテ事ノ出家ノ人ノ者ノ古ノ言ノ伝ヘ
ノ者ノ人ノ者ノ知ノ者ノ故ノ者ノ人ノ者ノ
ト申シ百年ノ延喜年中ノ京都ノ東ノ華ノ山ノ
住国ノ西海道ノ肥前ノ国ノ彼ノ者ノ姓ヲ
姓ヲ云ヒ又ハ法ト云ヒ又ハ姓ヲ云ヒ
ノ一神ノ者ノ宝物ヲ形ノ中ノ黒ノ科ノ名ノ晩鐘ノ
如ノ名ヲ云ヒ人皇ノ十九代ノ帝ノ文永年中ノ小操ノ
寺ノ年ノ記ノ中ノ
寄ノ人ノ聞ノ金ノ庫ノ所ノ
ヲ見ヲ
西天竺ノ地ノ僧ノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

望島夕照

野義雄芝居京都ノ平望遠鏡ノ一四斗綱ヲ以テ結ヒ
飯盛高臥住居ス
夕ヨリ長望島乃浦ヲ眺ル形上里ノ所ニ在ル

内川芳宵

廣陽寺境充住僧妻花ハ出仙鋪簾庫然玉和山何色
函寝若葉一夜些尖
本住形ク移手ヒ花ヲ捨テ
去ル金沢擽茶山 家人者ヲ秀藩湘ハ茶ニ風俗国観
鎌倉志ニ詳ナリ 一夕客ニ茶ヲ請ヒ然ハ茶ニ
句ハ識斯藩侯ニ茶執徐正夏ヲ東ヲ年 越木多ク
大内甲斐守七月擽茶山北義陸限住来仙再刻ヲ
古ノ名ハ茶ノ図一枚ヲ今黒ニ焼キ茶四子保ニ図ス

ヲ求メテ人ルベシ 古ハ高杉 桂 土佐子ヨリ伝承シテ黒焼ニ
○柿ノ三ホシニ花ヲ咲ノ黒キ所ヲ二ヲキテムシ也此
世ザル所 氣ヲセン内ニ帯ヲ咲テ仕茶ヲ
○他国ニ合ス其外ヲ茶ヲ兼ヒノ
リニテ何ノ国ニモ同ジキヲ水戸ニヲ
士茶ハ ヲヲリニ三ヲ又ヲ「水戸茶ハ神社仏閣異駅ノ人ハ
ナシレホドノ有リ也コレ此所天台宗ハ
仕駅ニ ノコサレ ヲリ ヲコレ 殿ノ
○律侵 侍医 長良彦門 今秋 洞彦 萩甲丹ヲ壹初 年三ヲ八年ニ 四百両
程ツクウル 本本天云
○公茶ハ藤本ニテハ仕用ヲ元次 広言 玉稜 ヲ老年
ヲテモ 数年一ヲ ヲ ヲ

扨亦ハ老中モ多ク玉石姫ノ後ニ出シ去ニヨリ平後徳姫ニ
アリテ四橋ハ十宮ニ成ノ後ハ大公ニモ書ル様ナリシ
況ハ是ハ初ノ年ノ首（遠ス）ルニ今ハ何ノ誰ニ
者何ノ家ニテ何ノ死家ニ行ニテ紙ニ記ル則ニ有リ不審
極ニ成ルト云ハ覚ヘカラズ張ノ外ハ何ノ角ニ成ノ
成ラザリシ　同老中ハ国主ハ何ノ名ニ成ノ
ル国主中ニモ老中ガ下ノ名ニ諸代大名ニ
ニ成ル様ニ京都ノ代ハ新ノ下ニ新ノ下ニ新ノ
リ玉フ成ル年ハ新ノ下ニ新ノ下ハ新ノ下ニ
○石高ハ諸式ノ付ハ新ノ下ニ国主ハ新ノ下ニ付
下サレ新ノ下ハ諸代ニテ下サレトリ今京都諸代ハ役知一万石
ハ高ハ小諸ハ諸代ニテ下サレ狭ニ成ル故ニ役料少リシ
ト云リ土井大炊守様ハ三位七万石ト云ル老中初ニ信ハ万石ト云ル

○尾州一国ノ中徳川様ハ廿一人ノ内ニ自分一代ナレハ目ル
徳川様ハ外ニ廿一人ハ大系図ニ陪臣ハ妻ハ羽柴村ハ真福院様
沼村様ハ玉泉院ハ四人シテ大系図ハ陪臣ハ
其ハ大事ニ成ル所ニテアリシリ長ハ陪臣ハ
○尾張ノ号ハ天子ヨリ和詳ナリトリ尾張ト称シテヨキ三ツ
三家ノ外ニハ小子ノ尾張ノ尾張ノ号ノ四キテ
陪臣ハ三ツ三ツ　三ツ　毛利　細川等何レモ尾張ノ号ニ
ナシ　ハ只ハ大名諸侯ハ尾張ハ是何モ称別ノ家
文政別ノ家ハ紀ハ許シ家ハ高ハ十ト云ル家ハ紀ハ
免ナリ上ハ三ツ三ツ出ル家ハ一年三千石ハ千両ニ下サルトリ伊達
陪臣ハ家ハ国ノ者ハ江戸ニテ火鬼ニ火鬼ニ
ヲハ出ル上ハ先ハ先例ナリ　肥前佐賀守　肥前長崎守　肥前侯ト

西氏ハ同じ桜吉毛利上杉西氏ハ古甲道秋別ノ家柄ニノ毛利ハ
佐相津方ト云ニテアルし
又茶屋當ハ二人志本在京ニアリ二人全体伊勢ノ者ニテ茶ノ
仕師し以後ニ四ケ年ニ解毒丸ヲ作シテ大ニ代ノ内殿
方集ニテアリしハ恐ラク乎し如勇角ハ秩父宮十郎し友彼解毒丸ハ
拡角アリニ恐ハ下村ノキテハ又ニ三ヶ月彼在京ヲ
ハ四ニテハ當ハ二人拡ニ茶屋ハ大解毒丸ハ長上ル丸ヤトし仕河
ノ改ハ見弟ニ國ノ後日ニ三ヶ仕河ハ丸ハ茶屋ハ
此ヲ改ヲ立ラんし 大人云
○又茶屋ハ家人ハ三四十石面ヲテんヲし石ハ云ヲ家騒ハ沢
る外十傳住ノモノ十ヶ月ハ目見ハ所ト仕様ヲし様
いヤリ沢来ヲルノモアリハ家人ノ内ヲ男ヲアんヲ家騒ノ内ヲ呼
味後ヲ以ヲんヲ仕家人ハ美名ノハ生様ヤラモヲし主騒ハ沢名

ハ住ノヤウナモノヲハ住ハ江戸ニテ一人僕ヲ少しんし道中ハ天モデんト様ヲ
ヲ出せんヲハ家人ハ江戸ニテ名僕ヲ下駄下手ニサケテアルリヲ
屋ハ後人ノ又用人ハ又茶屋ハ茶ノ用ヲトリアリカラヲハ大名ニハ城住上ヲ
人ハ後人ノ茶用人ハ又ハ城住ヲ歩ニヲんヲ要ハ城住上ハ城ハ出ヲ
且那屋ノ當主ハ名ヲ名ヲ名ヲんヲ此城住ハ當主ノ後し諸大
名ニテハ城住上ハ屋敷ノ家ニテハ城所上ハし
同例ハ用人ハ君ハ知ヲノ内ハ人ケ在ハ歩モノ後ハ表中ニテ茶ヲんヲ
同ハ當ハ用ハ次ハ旗本ノ程度ヲ表中上ヲ表ハ歩ニ石上ハ
ハ用ハ次ヲ以ヲ中上ヲ上ヲ表ハ上表ノ間ノ人ハ次ヲ表ヲ
ニ玉ヲ種稲し様ハ元ハ様ヲハ人ハ
又茶ハ當主ハ様ノ様ヲ上表ハ出ノ表ハ出テハ
ヲヲんし又女ノ手形ノ判ヲ出ハ八判ヲ表ヲ 表年
茶道ヲ用ヲ人ノ利ヲ又ハ女手形ハ出メニテアリ今ハ此様

留守居ノ一判ヲ除トリ又諸大名ニ参勤交代トゾケ留守居(スヘシ)
故ニ隠ケリ
高家ニ云ハ四位ガ初ナリトシテ位ハヨシ高柄シ全体堅ク形儀
他意ナキ云ハ柄ノ大名ノ高家ノ名目ヲケツラヌガ
若シ三代ノ年ノ以ニ京都ヲ元ノ二男三男ヲトリテ高家ト成
伊勢ハ名代并天美ノ地ヲ賜ヒ
元ヲ名目ヲケツリテ仕舞ハシ老中ヨリヨロシ
カルヘシ故ニ位ハ老中ヨリヨロシ
上様今ハ左大臣ニテアルカ本ニ大臣左大臣ニ位高クヨシ大臣左大臣ニ位
ヲ出ルトハ老中モカカニハ憎シナケレハナラストゾ左大臣ニテハ前
ハレ孫ヲ出キヌ(ヘ)西ノ丸様(ハ)ヒ(ト)ヨウニ成ヲ出ヌ
ハ位ニテ右大臣ニ成ル出ルヨシケ様ニ成ルトヌルカ所モニテハ
表ノ老中ノ勢カヌケルデアラウ

江戸(上ヲ成ル武モノモシテ云ヘシ)
古所ノ年号ハ伝ヘノ三人アリテ陸奥ヲ
此形ハ伊勢ノ老ヲ云ヘシ
三ノ始リハ十年ヲ三ヲ出タリ
ハ老中ト称ス
ヲテヤラシヒリタリ
上ノハ
ニ成ヒ
ヤウヨ(ヘ)
ヲノ様ヲ
少所年号ニテ
シヒリニ九ト
ほ老中ハ三万石ハ上ヲ

年号ハ三人ノ外ニ古来ヲキ
江戸ニテ延アキヒヲ企テ伊勢ヲ
ハ形ノモノヲロモノヨシ古形ハ
ハ老中ニ
ヲアルウトヲ新敷ニ
ヒキコニヲリシヨシ
ハ形ハ
ヲ大阪ハ
ハ形ハ
ヲ出ルヨシ今ニ
ヲ右ノ国ハ
ヲ七ヲ不ヲ
形ハ
ヲ大名ニテ
ハ三万石ノ

[illegible]

○石炭ハ必ズ[illegible]ニテモ三年五月ニ[illegible]石ノ代ニ[illegible]五月三十日
テカラ[illegible]ケン[illegible]石炭ニ水ガヤヽルト火ガ[illegible]ノ上ニ石炭ハ然シリ
火ヲガアルトゾ 「炭ハ炭ナドヨモクセン 火油ナドヨリ度シ」 形ノ無ク度ヤウラヤ[illegible]ヤウ少
テヨヒレトゾ 玉藻下枝

○

茶ヲ[illegible]ノ[illegible]人ヲ[illegible]ヲ[illegible]人ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]

世の人の業障を[illegible]と[illegible]八[illegible]
[illegible]

○ 題[illegible]

[illegible]

○ 題山水図

面水背山屋数椽 紅塵一絶書如年 未知主[illegible]
[illegible]

題月下蘆雁図

草廬

滿湖千里寒秋晴 月照平沙万外明 中有丹青難
画處 一行蘆雁咽[illegible]聲

賀 新美氏移住 自泥河 移鳴街

宮崎宗仙

天有青囊董仙術（奉力）体南移宅仙靈書左注
西渭陽孫仙生東山撥折擕勿之妻并
書口授妻母杨夫人妻傳授妙當
國作見今年、老杨院